論　　説

1996年アメリカの上院議員選挙

——ネブラスカ州の事例から——

神　江　伸　介

目　　次

I　概　観
II　1996年のネブラスカ州上院選挙
　1．ネブラスカ州の政治的特徴
　2．記事データに見るネブラスカ州上院選挙
　　(1)　争点報道の特徴(総量分析)
　　(2)　争点報道の特徴(時系列分析)
III　ヘーゲル派の保守化・党派化とネルソンの無党派主義
　1．ヘーゲル派の保守化・党派化
　　(1)　中絶問題
　　(2)　次期知事問題
　　(3)　減税問題
　2．ネルソンの無党派主義
　　(1)　反ワシントン
　　(2)　無党派主義
　3．候補者対立
　　(1)　ネガティブアド
　　(2)　テレビ討論
IV　要約と結論
註
付録　変数の説明
　1　公的集団
　2　利益集団
　3　候補者
　4　争点
　5　対象公職など
　6　ニュース・ソース

I　概　　観

1996年には，米国で大統領選挙・議会選挙などの総選挙が実施された。大統領選挙では，クリントン大統領の再選，上下両院とも共和党多数派の再形成という選挙前の分割政府の構図が継続した。

同じ時，ネブラスカ州でも選挙が行われた。ネ州の選挙で最も注目された選挙は，現職J・エクソン（3期18年）の引退によって空席 open seat となった同州の上院議席である。出馬したのは，オマハの無名実業家C・ヘーゲル（共和），州検事総長D・ステンバーグ（共和），現職知事B・ネルソン（民主）であった。第一戦は，5月14日の予備選挙であった。ネルソンは対立候補者なし，共和党がヘーゲル対ステンバーグでヘーゲルの当選となった。各種裁判記事などで地元のメディアに登場して圧倒的な知名度を誇ってきた州検事総長を，オマハの無名実業家が破ったというのは，一つのドラマであった。ヘーゲルは95年末からこつこつとキャンペインを開始し，潤沢な選挙資金を用意し，2月中旬からアドを流しつづけつつ，知名度の不足がポルで指摘されながらも終盤で逆転し共和党の候補者となったわけである。[1]

図表1　予選結果（5月14日投票，リンカーン・ジャーナルスター紙（以下ジャ紙[2]と呼ぶ））

	上院			大統領		
共和党	ヘーゲル	100,083	63%	ドール	115,958	77%
	ステンバーグ	59,881	37	ブキャナン	15,676	10
民主党	ネルソン	無競争		クリントン	72,133	89

予選で選挙資金を使うことのなかったネルソンに対して本選挙でも圧倒的な劣勢からスタートしたヘーゲルは，再び逆転勝利を勝ち取った。[3]

九五

図表2　本選挙結果（11月5日投票，ジャ紙，この時点ではすべての投票区の開票は終わっていない）

	上院		%	大統領		%	下院第1		%	下院第2		%	下院第3		%
共和	ヘーゲル	236,022	56	ドール	315,636	53	ビロイター	27,565	67	クリステンセン	50,617	57	バレット	22,625	73
民主	ネルソン	179,853	42	クリントン	202,702	34	クーム	13,686	33	デイビス	35,826	40	ウェブスター	8,276	27
他				ペロ	66,666	11									

本論では，96年のネ州上院選挙の展開過程を，ネ州の外で展開される選挙との比較においてフォローすることを目的とする。その際のデータとしては，96年2月12日から11月5日までのジャ紙のすべての該当記事(地方選挙，下院選挙を除く)クリッピングの内容分析を利用する。分析単位は段落，分析カテゴリーは段落行数，登場候補者(好意，非好意，1段落3名までの複数コード)，言及争点（賛否，1段落2争点)，言及公職種（以下行論では上院選挙報道と非上院選挙報道を比較の基本とする)，であった[4]。コードの詳細は「付録1」を参照されたい。なお必要に応じて，1980年から95年までのネ州民調査とICPSRのNESのデータを利用する。

II　1996年のネブラスカ州上院選挙

1.　ネブラスカ州の政治的特徴

ネ州の政治的伝統は無党派主義にある。ネ州の議会は一院制でかつ無党派制選挙で選出される。世紀末の人民党運動に影響された民主党の強い時代を経験した後，州は革新主義時代を迎え，ジョージ・ノリスの影響の下に州政の効率化などを目指し，二院制を廃止するとともに無党派制の選挙を採用した[5](1934)。その後，州の政治勢力自体は強く共和党化していったが，州知事，連邦上院議員などは民主党がとるという党派的にはねじれた結果が生じてきた。これは州独特な無党派主義の伝統によるものと見られてきた。

図表3　ネブラスカ大統領選挙等党派得票率

(%)

	大統領			知事	
年	共	民	他	共	民
1920	63	31	6	54	46
1922				43	57
1924	46	29	25	55	45
1926				50	50
1928	62	36	2	57	43
1930				49	51
1932	35	62	3	47	53
1934				48	52
1936	40	56	3	44	56
1938				48	52
1940	56	42	1	61	39
1942				75	25
1944	58	41	1	76	24
1946				66	34
1948	53	45	2	60	40
1950				55	45
1952	68	31	1	61	39
1954				60	40
1956	65	34	1	57	43
1958				50	50
1960	61	38	1	48	52
1962				48	52
1964	47	52	1	40	60
1966				62	38
1968	59	32	9		
1970				45	55
1972	69	29	3		
1974				37	63
1976	58	37	5		
1978				56	44
1980	64	26	10		
1982				49	51
1984	68	28	4		
1986				53	47
1988	59	38	3		
1990				49	50
1992	47	29	24		
1994				26	73
1996	53	34	11		

＊出典：Nebraska Department of Economic Development, Nebraska Statistical Handbook, 1991, など
＊知事は66年から4年任期制

	連邦上院		下院第1区		下院第2区		下院第3区	
年	共	民	共	民	共	民	共	民
1984	48	52						
1986	42	57						
1988								
1990	41	59						
1992	45	55	60	40	49	51	72	28
1994			63	37	50	49	79	21
1996	56	42	67	33	57	40	73	27

図表4　州民の政党支持（%）

	共和党	全米	民主党	全米	無党派	全米	選好無	全米
1980	38	22	33	41	22	24	7	12
1981	46		32		18		4	
1982	39	24	31	44	27	22	3	9
1983	45		34		19		3	
1984	41	27	32	37	21	25	6	11
1985	45		33		18		5	
1986	41	25	36	40	20	25	3	9
1987	40		32		26		2	
1988	36	28	25	35	36	31	3	6
1989	42		34		23		1	
1990	38	25	36	39	25	29	2	8
1991	42		31		23		3	
1992	40	25	33	35	26	32	2	7
1993	40		32		25		3	
1994	42	31	29	32	27	32	3	3
1995	41		30		25		4	

出典：NASIS，NES

ネ州の党派地図の観点でいうと，政党支持では，ネブラスカ大学リンカーン校社会学科の調査NASIS[6]による図表4に見るように，共和党の圧倒的な多数派状況が継続してきた。これは全米の状況と対照的である。全米では約10％の差をもって民主党優位であった[7]。大統領選挙得票率でも，図表3に示すように1940年以来民主党が共和党を上回ったのは64年のジョンソンの時に一度だけという共和党優勢の状況が続いてきた。ネ州の政党支持の状況は，表によるとここ15年間の政党支持の分布の推移では，1988年一時無所属が急増し再び20％台に戻った変化を除いて安定した状況が続いてきた。小変動を除いて基本的には共和党が40％前後，民主党が30％前後，無所属が20％台というように，共和党が10％を超えて多数派である。州民の政党支持保有者が常に70％を超えているということ自体，全米標準に比較して相当党派的雰囲気を持った選挙人であるといえる。このことが大統領選挙や下院選挙での共和党支配をもたらしてきたといえるが，逆にいうと党派より個人が重視される全州規模選挙では民主党にもチャンスがあったともいえる。

イデオロギーにかんして州民の保革意識を聞いた調査では進歩派が20

図表 5　州民の政党支持とイデオロギー（%）

	民主党						無党派						共和党					
	進歩	米	保守	米	中道	米	進歩	米	保守	米	中道	米	進歩	米	保守	米	中道	米
1989	27		28		44		16		34		48		7		61		31	
1990	30	36	23	25	46	39	19	26	33	36	46	38	9	9	59	61	31	30
1991	31		23		44		21		34		44		11		56		33	
1992	26	36	27	22	47	41	19	26	29	37	51	37	13	11	50	61	37	28
1993	27		26		46		17		32		50		11		50		39	
1994	30	46	24	20	45	34	21	24	30	40	47	36	8	6	54	78	37	16
1995	30		22		47		20		29		48		9		56		34	

%弱，保守派が 40 %弱，中道派が 40 %強と，ネ州では保守派が進歩派の約 2 倍の勢力を持っている。更に，政党支持層の中のイデオロギー分布を見ると，図表 5 にみるように，民主党支持層の約半分弱が中道派，30 %弱が進歩派で保守派が更に 10 %弱以下，無所属層の約半分が中道派，保守派が 30 %，進歩派が 20 %，共和党支持層の 50 %以上が保守派，30 %強が中道派，10 %弱が進歩派，という構成である。民主党支持層は全米標準と比べても進歩派が相当少ない。最近の変化として民主党層において 92 年から進歩派の進出が若干生じており，共和党層に保守派の進出が顕著であるという傾向がみられる。共和党の保守化の強まりにより共和党勢力のイデオロギー的・党派的攻撃の土壌が生まれつつあるということであろう。というのは，図表 6 に見るようにネ州民の一般的経済満足は非常に強く，かつ何れかの党派にその受け止めが偏っているわけではないので，偏りの強いイデオロギー上の政党支持層における変化が選挙に反映したことが予想されたわけである。

図表 6　政党支持と経済満足

	民主党	共和党	無党派
1987	77	74	68
1988	64	58	52
1989	80	73	67
1990	78	69	66
1991	73	70	63
1992	78	71	70
1993	80	75	72
1994	81	74	75
1995	80	74	73

他方，連邦政府は民主党議会多数派支配状況が続いてき，92 年から民主党大統領共和党議会という分割政府であった。共和党州としては，全般的な政治不信状況に加

九二

えて，党派状況の相違が反ホワイトハウス・反民主党という雰囲気を持つことも当然の成り行きであった。

予想される仮説としては，ネ州では，依然として共和党多数派状況は継続している一方，共和党のイデオロギー的保守化が見られるので，上院選挙における民主党候補者は選挙に勝つためにできる限り無党派に近いスタンスをとり，共和党候補者は強く保守的姿勢を示すであろう，ということである。

2. 記事データに見るネブラスカ州上院選挙

(1) 争点報道の特徴(総量分析)

ここでは，対象記事データを9ヶ月分総計して上院とそれ以外の記事行数を比較する。両者の単純な比較は，図表7に示されるように，非上院記事が5万1千行，上院記事が1万3千行であった。

図表7　上院記事行数

1-2-1-1表　上院選挙記事行数		
非上院	51201行	
関連なし	12212	23.9 %
議会(議会選)	2969	5.8
知事(知事選)	140	0.3
大統領(選挙)	33481	65.4
裁判所	117	0.2
選挙一般	79	0.2
連邦政府	1572	3.1
副大統領	631	1.2
上院	13290	100.0

次に図表8を見ると，記事中に争点（話題に近いものもある）として言及された場合をコーディングした結果は，行数に還元して約4万8千行に上った（登場争点のコーディングは2件までなので複数該当するケースがある)。そのうち上院選挙ではない公職(公職が特定されていないものもあるが州の外の大統領選挙記事などが主となっている）で争点が言及されるケースが約3万8千行，上院争点記事が約9千行であった。地方紙の選挙の争点報道として，州外記事と州記事の割合がほぼ4対1の割合である。

言及行数の順位という観点でいうと，非上院選挙報道の場合，党大会，勝敗，キャンペイン，競馬・ポル，税金，テレビ討論，中絶，選挙資金，副大統領，FBI FILESの順で10位以内に登場する。ネ州の上院選挙報道

では，州外の報道との相違でいうと，党大会，中絶，副大統領，FBI FILES が落ち，均衡予算，支持，アド，党派性の争点が10位以内に入ってくる。順位の入れ替わりを説明する理由としては，全国行事である党大会は当然落ち，大統領の指名事項である副大統領も落ち，ホワイトハウスの事件である FBI FILES 問題も落ちたわけだ。中絶は上院選挙でも12位程度であるのでかなりネ州でも重視されていた。

上院で均衡予算が入ってきた理由は，ネ州で出馬した候補者のタイプによっているのであろう。実業家出身の候補者として異常なまでも減税を主張するヘーゲルに対して，現職知事として均衡予算に配慮する関心から減税より均衡予算を強調したネルソンとの対立がそのまま記事量の違いに現われたものである。図表9に見るように均衡予算については両者がほぼ均等に対立しあっているのに，税金についてはヘーゲルからネルソンに仕掛けるケースが圧倒的に多かった。

支持(推薦)記事が多いのもネ州上院選挙の特徴である。非上院記事では2％に過ぎないのに，上院記事では5％に上る。ヘーゲルの場合，退役軍人集団からの支持（5月11日)，州に訪問

図表8　争点別公職別記事行数

	非上院%	上院%
党大会	9.5	1.4
勝敗	7.6	8.4
キャンペイン	7.4	15.2
競馬・ポル	6.9	4.6
税金	6.6	7.4
テレビ討論	5.0	5.5
中絶	5.0	4.0
選挙資金	4.9	6.5
副大統領	3.6	0.0
FBI_FILES	3.4	0.8
指名	3.3	4.1
ホワイトウォータ	2.9	0.0
経済(発展)	2.6	1.7
麻薬	2.5	0.1
人格	2.5	2.5
第三党	2.4	0.7
スキャンダル	2.4	1.6
煙草	2.3	0.7
社会問題	2.2	1.4
外交	2.1	1.5
均衡予算	2.1	7.6
福祉	2.1	1.9
支持(推薦)	2.0	4.6
政党統一	1.6	0.2
人種	1.6	0.0
アド	1.5	10.9
家族第一	1.5	0.4
クリントンの人格	1.3	0.2
防衛	1.0	1.3
党派性	0.2	4.7
	100.0	100.0
行数計	37870	9033

図表9　均衡予算と税金をめぐる候補者への言及（件数）

	均衡予算	税金	支持（推薦）
ドール	25	171	28
クリントン	13	52	23
ヘーゲル	39	65	34
ネルソン	52	52	36

した政治家からの支持（7月9日），キリスト者連盟またはプロライフ集団からの支持（7月20日，8月7日）などが見られる。ネルソンの場合，プロライフ集団からの支持・その撤回（8月5日），煙草産業からの支持（8月24日），退役軍人からの支持（10月24日），土壇場でのケリー，エクソンからの支持（11月2日，4日）などがある。ネ州での上院キャンペインの激しさを物語っている。

アド問題が，非上院記事では1.5％に過ぎないのに対して，上院記事では11％と第2位である。ネ州では大統領レベルでは共和党一党州であるため，特定地域をねらう最近の効率的な大統領選挙のアドはあまり見られず，上院の激戦を反映したアドが見られた。民主党とステンバーグのヘーゲルに対するアド攻勢が予選期間中と本選挙期間中双方に見られた。ヘーゲルのキャンペイン組織としてはこの種のネガティブアドはやらなかったが，本選挙期間中にネルソンの知事時代の増税歴を執拗に追求する共和党のアドがあった（後述）。その他民主党のラジオアドも問題とされた。アド記事が増えていった理由は，候補者がいつからアドを開始するという宣言をする記事と，アドに対するポルなどの反応記事，対立候補者による反論記事など，相乗作用によって増大することによる。

「党派性」記事は，ネルソン派が無党派主義のネ州の政治的伝統に依拠し共和党一党支配州に食い込もうとし，ヘーゲル派が共和党中央との連携を求めたという政治的理由によるものである。

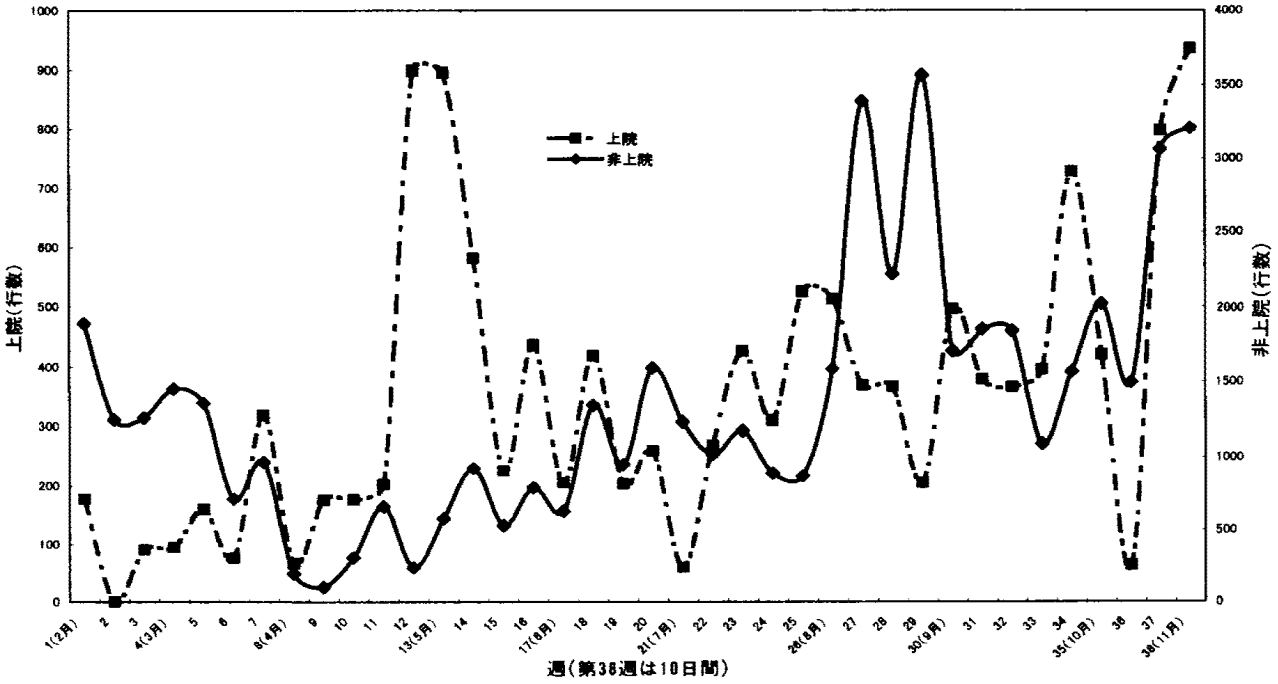
(2) 争点報道の特徴（時系列分析）

2月のアイオワ州党員集会から11月の投票日までの全記事行数の週単位推移を「図表10　記事行数の推移」に見てみる（上院・非上院の比率が相当異なるので2軸グラフにしてある）。図によると，非上院選挙報道では，2月初めの約1,900行から4月初めのの100行まで大きく落ち込み，その後低いレベルを維持しながら6月末まで上昇し7月中旬の一時の落ち込みを見せたあと，8月期間中は両党大会の合間に若干の落ち込みを見せながらも3,000行台の高い水準を維持し，9月中旬に1,000行に落ち込んだ後，

10月の3,000行に回復するという様相を見せる(11月は3日分の記事しかない)。即ち，全米の選挙報道のトレンドは，必ずしも平坦なものではなく，注目されるキャンペイン・イベントに応じて新聞の報道が変動してきたことがわかる。期間の初めがアイオワの党員集会から3月のスーパー・テューズデーの予選イベント，8月が党大会，9月以降本選挙期間に主にテレビ討論の報道で支配されるという3つの主要イベントにしたがってきたわけだ。

対してネ州の上院選挙報道は，図中破線で示してある。2から3月中は100から300行程度を示して低報道状態が続き，5月に900行台と飛躍的に跳ね上がる。その後6月末まで低下を続け7から8月に入ると500行台に回復する8月にかけて200行台まで落ち込み，9月初めに700行，中旬に60行，10月に800行と大きなジグザグを示した。

図表10　記事行数の推移



上院選挙報道の変動も，基本的にはキャンペイン・イベントにしたがった報道を行ってきたといえる。ネ州の予選の5月，郡・州党大会の6月，テレビ討論の9月(上院候補者は中旬と末に2回)に対応した報道の動きである。注目される点は，10月の終盤期を除いて，全米の記事と州の記事が

八八

そのピークを異にしている点である。上院選挙以外の報道に焦点が当てられる期間はそれに全力投球し，上院のイベント時期にはその報道に集中するという構図が見られるのである。それは単なるスケジュールの違いを反映しているだけかも知らないが，選挙人には大きな影響をもたらす。全国トレンドに対して州政治の独自性を表明することも可能となるといえる。これは必ずしも全国と無関係に州の政治議題を設定せよというものではない。国政と州政とがずれを持つということは確かに古くは革新主義者が主張したような国政から州政を隔離できるという利点もあるが，州政にとっては，全米で提起された議題を取捨選択し州固有の政治の現状に対応した議題を構築するというプラス面に機能するのである。

ここで，「(1)」の総量分析で見た争点報道量の相違を時系列軸での相違という観点で見直してみよう。文中基本となる表は「図表11　争点報道」である。

「独自性」の現れ方のモデルは，次の4つが考えられる。

第一に，単にキャンペイン日程が異なるために報道される内容は同じだが時期がずれるものがあることは前述のとおりである。これは形式的な独自性とみる。

図表によると，前述のキャンペイン・イベントを反映しているために日程上の若干のずれを見せながらも，内容的には予選，党大会，本選挙(テレビ討論)の三つの山を基本的には見せているものは，「キャンペイン」，「選挙資金」，「支持」，「勝敗・ポル」，「アド」である。選挙資金は定期的に選挙中に報告が出るのでその時期の内容をめぐる議論が登場した(ジャ紙の報道では上院の場合，4月16日，4月30日，7月14日，大統領の場合，10月18日，10月21日)。

「テレビ討論」は全米のものとかなり相違があるようだ。予選のテレビ討論は他州のものは報道がなく，ネ州のテレビ討論が報道されたので5月まで大きな山がある。本選挙のテレビ討論はネ州でも終盤に行われ報道も大きかったが，値として出ていないのは，段落単位で登場する議論は争点と

図表 11　争点報道（公職別，時系列）

	ｷｬﾝﾍﾟｲﾝ		選挙資金		支持(推薦)		勝敗		競馬・ポル		ﾃﾚﾋﾞ討論		アド	
週	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt
1-	582	8	78	43	6	0	619	8	937	5	125	27	116	0
5-	118	28	71	7	59	0	396	0	201	7	0	12	0	0
9-	80	173	135	69	0	36	135	169	46	87	0	32	16	168
13-	289	449	0	61	7	70	123	164	141	28	24	219	116	375
17-	129	19	111	0	39	0	34	0	44	0	0	0	0	0
21-	147	19	230	136	116	58	117	15	142	7	5	10	0	0
25-	179	231	288	109	111	134	230	167	325	40	9	151	98	135
29-	133	11	141	83	117	0	211	22	237	0	130	19	79	53
33-	267	8	352	0	9	0	86	0	399	92	1607	31	110	175
37-	875	430	446	75	310	116	943	212	151	151	11	0	48	82
計	2799	1376	1852	583	774	414	2894	757	2623	417	1911	501	583	988

	ｸﾘﾝﾄﾝの人格		人格		FBI_FILES		ｽｷｬﾝﾀﾞﾙ		ﾎﾜｲﾄｳｫｰﾀｰ		防衛		外交	
週	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt
1-	0	0	4	0	0	0	214	0	0	0	14	5	19	0
5-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	86	0	45	0
9-	7	0	0	181	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
13-	45	0	6	21	0	0	0	0	313	0	145	0	51	0
17-	6	0	0	0	1183	0	177	0	541	0	0	0	0	0
21-	8	0	18	0	62	0	6	0	9	0	59	0	0	0
25-	24	0	469	7	0	0	47	0	17	0	52	105	0	42
29-	58	0	98	0	13	0	194	0	18	0	0	8	392	59
33-	242	12	40	10	24	64	10	0	156	0	7	0	193	35
37-	100	4	296	8	18	7	246	146	29	0	10	0	111	0
計	490	16	931	227	1300	71	901	146	1083	0	373	118	811	136

	経済(発展)		税金		均衡予算		家族第一		福祉		社会問題		人種		中絶		煙草		麻薬	
週	Non S	Snt	Non S	Snt	Non S	Snt	Non S	Snt	Non S	Snt	Non S	Snt	Non S	Snt	Non S	Snt	Non S	Snt	Non S	Snt
1-	167	0	357	14	103	12	0	0	17	0	50	79	292	0	122	0	0	0	0	3
5-	10	48	36	4	87	22	11	0	44	21	0	10	10	0	158	66	0	0	0	0
9-	33	34	0	0	18	0	0	0	0	0	53	0	0	0	180	7	0	0	24	0
13-	8	42	187	18	126	7	0	0	220	12	169	6	0	0	0	30	0	0	9	3
17-	6	12	253	169	40	136	178	0	9	0	123	0	0	0	218	11	74	0	0	0
21-	18	0	188	76	86	98	62	0	160	79	152	0	144	0	288	0	104	5	42	0
25-	81	0	825	126	135	121	166	0	54	0	0	0	78	0	685	102	241	0	92	0
29-	109	13	392	98	78	86	51	0	228	54	127	0	26	0	152	5	424	11	310	0
33-	183	4	161	92	73	145	14	25	37	7	105	27	41	0	98	132	20	0	228	0
37-	366	0	86	75	45	58	82	12	19	0	55	0	0	0	0	10	13	50	241	0
計	981	153	2485	672	791	685	564	37	788	173	834	122	591	0	1901	363	876	66	946	6

	党派性		政党統一		副大統領		党大会		指名		第三党	
週	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt	NonS	Snt
1-	0	44	170	0	22	0	47	0	49	0	79	0
5-	5	0	74	0	253	0	122	0	0	0	272	9
9-	0	12	35	0	0	0	24	0	0	0	13	0
13-	9	81	7	15	71	0	71	0	0	0	0	22
17-	11	34	0	7	140	0	170	12	94	72	39	24
21-	0	13	25	0	169	0	276	0	706	295	81	0
25-	5	63	266	0	693	0	1448	28	342	0	263	9
29-	48	72	22	0	0	0	1442	90	47	0	105	0
33-	0	65	0	0	18	0	0	0	0	0	32	0
37-	0	39	0	0	5	0	0	0	0	0	18	0
計	78	423	599	22	1371	0	3600	130	1238	367	902	64

八六

してコードされているからである。大統領でも基本的にはテレビ討論自体の議論は登場争点単位のコーディングであるが，大統領テレビ討論の場合討論のフォーマット，ペローなどの参加者をめぐる議論の報道が大きかったのでテレビ討論それ自体として大きい行数が出ている。

このモデルでは，「独自性」にどのような点で寄与するか？　内容的に同じものならただの日程の違いでしかない。大統領キャンペインにネ州が先行する場合(州党大会，上院議員候補者テレビ討論)には，州独自の関心事(中絶，均衡予算，党派性等)が全国政治に相対的に離れて議題化できる。後追いのケース(予選等)では，ある争点が全米的に人気があるかどうかの評価が定まるので，州の争点としての取捨選択することが可能となる。

第二に，連邦政府構造を反映した中央―地方政府間の余り支持的でない関係を反映した独自性モデルがある。

これらのうちまったく州外の議論の発展と関係のないものが大きくいって3種類ある。その第一は，スキャンダル関係である（「スキャンダル」，「クリントンの人格」，「FBI FILES」，「ホワイトウォーター」)。これらは大統領，ホワイトハウスレベルで発生した問題で共和党が攻撃議題としてきたもので，共和党州としてのネ州でも当然話題になって不思議でなかったはずだ。しかし，FBI FILESもホワイトウォーターもネ州の候補者からは殆ど言及がなかった。クリントンの人格については9月30日に一度だけヘーゲルが問題としただけである。終盤に一時ネ州でスキャンダルが問題となったが，これはヘーゲルの会社設立をめぐる疑惑にかんしたものでワシントンとは関係のないものであった。共和党中央(ドール派)は大統領やホワイトハウスをめぐるスキャンダルを議題にすることに当初失敗した。ドール自身が大統領選挙の議題設定にかんして逡巡があったことや，15％減税に焦点化した後もクリントンの倫理問題を議題としたのはテレビ討論第二回目でしかなかった。中央の及び腰に加え，ネ州の候補者自身がワシントンで生じていることに目をむけない姿勢が目立ったのである。共和党中央だけではなく民主党中央も議会選挙との関連を大統領選挙で求めない

ことも関係していた。

この政府構造に由来するモデルは，特にネ州のように停滞した地方の農業州にとってワシントン政府に対する不信感が共有され，選挙政治では州への権限委譲や反ワシントンの声が大きくなっていく要因ともなる。

第三に，州のデモグラフィックな特性との関係で独自性に寄与するモデルもある。人種，煙草，麻薬など少数派や都市部の問題である社会問題関係は議題にならなかった。

第四に，政党の連邦構造を反映した独自性モデルが考えられる。党中央の行事にはネ州の上院選挙ではほとんど関心がなかった(最大でも 15 行)。中絶問題でゆれる共和党，福祉改革法のクリントンの賛成をめぐって紛糾する民主党，では党大会時期には「政党統一」が議題となった。副大統領候補者選定にネ州はまったく関心がなかった。全国党大会の記事ではネ州出身代議員の行動の報道はあったが，上院選挙では候補者の党大会での資金集めの記事が見られた程度である（8 月 16 日，ヘーゲル)。量的に見るとまったく関係がないといっていい。

各州の連合体である党中央に対して州の政党はどちらかといえばたとえ国政選挙であろうと政治資金の援助などを除いて「冷めた」態度を持っていると見ていいだろう。選挙人や代議員数の観点で大統領選挙と党大会にほとんど影響を与えることができないネ州の政党組織にとって，スキャンダルや妥協の多い党中央に対しては「無党派主義」の姿勢を取って相対的に独立しておいたほうが利益が多いのかもしれない。

以上の 4 つのモデルは，州の選挙キャンペインを独自化する要因の議論を提供するものであったが，勿論，ラベルも大政党のものをつけ国政選挙を戦う上院候補者にとって国と州が全く異質であることは都合が悪い。同質的なものもある。コンスタントに議論されているという観点で非常によく似ている山は均衡予算，福祉である。ほぼ完全に一致するというのが外交問題である。むしろ上院のほうが先行するというのが経済問題，税金である。また，中央では論議が終わりつつも，上院ではむしろ終盤まで議題

であった争点は中絶問題であろう。

以上を時系列の争点別推移をまとめてみる。ネ州の上院選挙において，全米の選挙スケジュールと自州のそれとに応じて若干のズレを持ちながらも歩調を合わせているものがあるとすればキャンペイン関係のものであるといえる。一方，上院選挙ではほとんど関心が寄せられない争点が，ワシントンをめぐるスキャンダル関係，党中央が大統領選挙のために打ち出す政策，副大統領選定などであった。これらの大統領キャンペイン独自の動きにはネ州の上院選挙では関心がなかった（ヘーゲルもドールの減税プランは自分のものとは違うといっていた)。また，基礎的にデモグラフィックな条件から全米争点と関係のない争点は当然にも候補者たちから無視された。

ネ州の上院選挙では，自州の条件から中絶争点を議題化する一方で，税金，均衡予算など知事対ビジネスマンの争いにふさわしい全米争点が極大化され，ワシントンでの政争からは距離を置くという，いわば，大統領選挙と上院選挙とは同時に歩みながら別個の選挙であるかのように戦われたといえる。

III　ヘーゲル派の保守化・党派化とネルソンの無党派主義

ここまで選挙に何らかの公職別の相違がないかという分析を行ってきた。前項までは，必ずしも候補者に特定された分類ではないので，候補者間の対立構図がよく分からなかった。つぎに候補者別に争点の言及行数(候補者別の単純争点言及行数は図表12に示した)と，その際に候補者に好意性・非好意性得点をつけたデータを分析したい。この得点は，データのコーディングの際，候補者にその段落の文脈において肯定されている(2点)のか否定されている（0点）のか，そのどちらでもない（1点）のかという好意性得点をつけておいたものである。肯定否定のケースは，利益集団からの支持・不支持，候補者同士の評価・批判，段落で言及されている話題について有利・不利などの様々なケースを含む。データに現れたバイア

スである。この好意性得点を段落行数で現して，好意的段落行数から非好意的行数の差を計算し「好意性得点指標」を作成しそれを図表14に示した。

1. ヘーゲル派の保守化・党派化

(1) 中絶問題

国政と地方とで問題となる争点が相違してくるのは，州の経済構造，階層，人種，文化構成に依存しているであろう。黒人，移民，ゲイなど少数派問題が少ないネ州ではこれらは殆ど上院選挙記事で言及されることがなかった。中絶問題では，全候補者がプロライフの立場であったので候補者間の争点とはならなかった。しかし，本選挙期間中になってプロチョイス派の婦人をネルソンが判事に任命したという関係で，州のプロライフ団体がネルソン支持を引っ込めようとするなどの事件があったりして，民主党候補者ネルソンのプロライフの立場をプロチョイスに印象づけようとする試みが間欠的にみられた。

図表12　候補者別争点言及行数

	ヘーゲル	ネルソン	トール	クリントン
キャンペイン	991	423	1454	703
選挙資金	375	249	413	272
支持(推薦)	267	243	327	326
勝敗	319	219	1469	755
競馬・ポル	311	281	1659	1180
テレビ討論	314	225	678	562
アド	576	363	267	137
クリントンの人格	12	12	284	429
人格	190	26	350	229
FBI_FILES	-	-	160	216
スキャンダル	118	100	68	226
ホワイトウォーター	-	-	79	389
防衛	108	20	259	195
外交	97	22	99	309
経済(発展)	68	41	258	456
税金	536	438	1540	620
均衡予算	397	505	329	275
家族第一	-	-	48	265
福祉	48	93	237	486
社会問題	-	-	295	370
人種	-	-	215	17
中絶	82	197	776	52
煙草	44	36	174	193
麻薬	-	-	353	598
党派性	183	295	39	61
政党統一	-	-	233	61
副大統領	-	-	762	24
党大会	101	105	498	660
指名	133	90	0	42
第三党	-	-	121	130

ネルソンのプロライフの立場は明らかであったため，州のプロライフ団体 Nebraska Right to Life は予選のときから共和党の2候補者とネルソンを支持していた。しかし，8月になるとネルソン支持を取り下げようという動きが表面化した。直接的には知事によるランカスター郡プロチョイス派K・フラワーズの連邦地裁判事指名をめぐって生じたもの

だが，プロライフ派の不満は州議会に提案されていた「部分中絶 partial birth abortions」禁止の立法化問題，ネルソンが上院議員に当選した場合のプロチョイス派K・ロバックの知事就任問題，が深く絡んでいた。[8] ネルソン支持の再考を求めたのはオマハのプロライフ団体であるメトロ・オマハ・生存権団体（22,000名）であり，この動きが党派的なものであるという理由で州プロライフの指導者（民主党系）の一人の辞任問題に発展した。部分中絶禁止法案をめぐっては，知事が法案審議の州会招集を渋っているという理由でプロライフ派は気に食わなかった。オマハの副議長は知事への抗議の手紙の中で「11月の選挙の後で州会がプロライフである，または，（部分中絶禁止）法に署名する知事（ロバックのこと一筆者）がプロライフである，かどうか保障されていない」と書き綴った。ネ州プロライフ団体の内紛は，数日後の執行委員会の電話会議でネルソン，ヘーゲル両者を上院選挙では推薦するという結論を得収まったかに見えた。[9]

オマハプロライフ派の反撃は選挙戦終盤にきた。9月末に同派は「ネルソンのカレン・フォーラーの任命はネ州の全プロライフ派への侮辱である」と宣言しネルソン支持を撤回した。[10] ネルソン側の言い分は，自分は一貫してプロライフ派であったこと，ヘーゲルは連邦判事の上院での承認投票では「中絶をリトマス試験紙にはかけない」といっていたのに比べ，自分はプロチョイス派に賛成するつもりはないと公に発言していたこと，フォーラーは立法的役割を持つ判事ではないこと，などであった。むしろヘーゲルの一貫したプロライフの立場に疑問を持つ人もいたりした中で，ネルソンのプロチョイス派視は言いがかりに近いものであった。

(2) 次期知事問題

イデオロギー問題については，州のイデオロギーの大勢が保守主義であることから派生したと思われるフレームアップが共和党から仕掛けられた。その代表は次期知事問題であろう。当時の副知事はK・ロバック (Kim Robak) という女性であり，その思想が進歩派であるため，ステンバーグはネルソンが上院に当選すると次期知事はロバックがネルソンの残り任期2

年を務めることになり，彼女の進歩主義が問題になるというキャンペインを張ったのである。[11] ステンバーグの発言によると，彼女は「進歩派判事を任命する」のではないか，そして「どの程度州の支出を増大させるか」分かったものではないというようなことをいった。ロバックはネルソンといっしょに選挙されているので知事と違う考えを持っていると考えるのは「不正確・不公正」だと反論した。[12] その後ヘーゲルが指名されると次期知事問題はロバックのプロチョイス問題として全面化された。

ジャ記事では147行もこの問題が登場している。イデオロギー関係のデータでも他と較べて，「保守主義」，「リベラル」が言及される行数が59行，31行と登場してくる。

(3) 減税問題

96年の大統領選挙でキャンペインの報道関係を除くと減税が最大の争点であったようだ。ただ，減税を実施するにしても，財政赤字を拡大しない形で行うか，予算バランスに余り気を使わずに減税による浮揚効果の結果として財政赤字の解消を図るか，によって党派間の主張の違いがみられた。共和党候補者は一般に後者のサプライサイド経済を主張し，民主党候補者は均衡予算を主張した。

これらの政策の違いは，図表9に見たように候補者の減税・均衡予算への強調点の差に現れていた。ドールは議会出身者らしく当初均衡予算派であったが，後にフォーブスらの圧力によって純粋減税派に変わっていくという党大会直前の状況が醸成され，純粋減税派のケンプの副大統領指名に帰結した。ここで共同通信からのドールとクリントンの主張の相違点を紹介しておく。

ドールの主張：1）予算は2002年には均衡でき，1ドルあたり10セントの節約で5,480億ドルの減税ができる。2）メディケアーはその破綻から保護することで維持されるだろう。3）クリントンは最大の増税を行った。[13]

クリントンの主張：1）4年間で予算の欠陥を半分にするという92年の公約を果たした。92年の2,900億ドルの赤字がこの15年来最低の1,160

億ドルに削減できた。2）ドールと共和党がメディケアーを破壊するだろう。3）膨大な利子の支払いは，共和党大統領のレーガンとブッシュによって蓄積された赤字のためである。

ヘーゲルはドールの減税計画と異なる独自のものを主張した。彼はドールの即時所得税廃止のプランに反対し，子供一人当たり500ドルの控除，キャプタルゲイン税の減税，相続税の廃止，所得税の長期的オーバーホールをふくむ「特定減税」を提案した。[14] ヘーゲルの提案は，当初「ドールの提案する所得税減税は何でも支持する」といっていたことと違うということでネルソン派に責められることとなった。[15] また，ヘーゲルはネルソンの歳出削減案に対抗して，住宅都市開発局の廃庁を提案した。ネルソンは減税先行に反対し，まず歳出削減を重視し均衡予算を確保した上での減税を強く求めた。二人の減税案は結局ネルソンが860億ドル，ヘーゲルが3,050億ドルという額の差に帰着した。

9月になるとヘーゲルは歳出削減のため教育省の廃止を言い出した。ネルソン派はこの程度の案では連邦予算の1.4％の削減にしかならないばかりでなく，小学校をはじめとする種々の連邦補助がなくなると反論した。[16] その他，ヘーゲルの歳出削減策の中には連邦航空局予算25％カットがある。

ネ州の税・均衡予算論議には，ネルソンが現職知事であることに関係した争点が深く絡み合っていた。この間のネ州の財産税の上昇は知事の「リーダーシップの欠如」によるものであるというのがヘーゲルの攻撃点であった。ネルソンの反論は，96年に州議会を通過した支出上限法と課税上限法により財産税の上昇に対処したというものだった。

七九

2. ネルソンの無党派主義

(1) 反ワシントン

ジャ紙では，上院選挙では「反ワシントン」または「大きな政府」，「政府信頼」の争点が非上院選挙記事に較べて大きな割合を示した。

ネルソンの発言からこれを拾うと，彼はヘーゲルを「究極のワシントン・インサイダー」と断じ，「私はワシントンのメッセージをネブラスカにではなく，ネブラスカのメッセージをワシントンへ運ぶ」，自分の当選は「一つだけの政党の代表ではなく，ネブラスカの人々すべての上院議席を得ることになる」，といった。[19]

保守派共和党のヘーゲル派が反ワシントンを訴え州への権限委譲を訴えることは当然であったとしても，ネルソン派もこれを行った。テレビのネルソン派民主党のアドで，ヘーゲルの経歴を述べる中で，ヘーゲルはネ州に20年住んでいなくその間西ヴァージニア州に居住しワシントンで活動し，西ヴァ州知事選挙に立候補も考えた人物であるというものがあった。また選挙終盤では，ヘーゲルはワシントンでロビストとして活動する中でセルラーホン会社設立の利権を得，オマハで巨富をなしたが，ネルソンは彼の会社設立当初の脱税疑惑を問題化した（後述）。

ジャ紙で反ワシントンが登場した行数を「図表13」に示した。表中「非好意」となっているのは，ワシントンとの関係で対立候補者もしくは利益集団に批判されていることを示し，「中立」は当該候補者が「反ワシントン」を表明しているということである。ヘーゲルにはもちろんクリントン政権を指すという意味で反ワシントンが多いが，同時に他党派から「ワシントン・インサイダー」と批判される割合がきわめて多く（ステンバーグからも），彼の場合反ワシントンの立場は相殺され薄められている。対して，ネルソンはその多くが「反ワシントン」を主張したものである。

(2) 無党派主義

96年の上院選挙では，ネルソンの反ワシントンの態度は，無党派主義で上院活動をするということを強調した彼のキャッチフレーズと密接に関連していたと見ることができる。彼はすでに2月14日に「政治的に党派的上院議員にはならな

図表13　反ワシントン（行数）

ネルソン	非好意	7
	中立	20
ヘーゲル	非好意	47
	中立	46

い」と表明した[20]。彼は，「ワシントンに強力な無党派の声を運ぶつもりである」，「この選挙は，大部分が両政党のリーダーと協力して仕事できるのは誰かをめぐる争いになるだろう」，「ネブラスカ人はワシントンの交通麻痺，手詰まり，停滞に飽き飽きしている」から，知事としてやってきたように政党の境界をクロスした「両党派的基礎で」解決を図るつもりだ，と発言した[21]。

本選挙期間中は執拗に「考え方の選挙」を迫るヘーゲルに対してネルソンは無党派主義にこだわりつづけ，クリントンのネルソンというイメージ除去に努めたのである。彼はすでに2月14日に「政治的に党派的上院議員にはならない」と表明した。ヘーゲルは，予選当選の勝利演説で，知事として任期全うすると公約したネルソンの公約違反を責め，「私もまた公約を作る，そしてそれを守るつもりだ」といい，「新しい選挙（本選挙―筆者）は考え方を巡るものになりつつある。それはバカバカしいものを巡ってではない。それはどこに私がすんでいるか（ヘーゲルのワシントン居住歴―筆者）についてではない」といった[22]。

ネルソンは，上院で「共和党との協力を約束」した（5月）。ネルソンは，ネブラスカは彼の知事時代に無党派的やり方で発展してき，82,500の新しい雇用を創出してきたという実績を上げ，「ここは党派性に基礎を置いたネブラスカではなく無党派州である」と，党派性を強調するヘーゲルに対抗した[23]。

ジャ紙の記事では，図表8にみるように「党派性」が問題となったのは上院選挙で4.7％で非上院選挙記事の0.2％と圧倒的に相違している。時期的には，ネ州の予選時期と9月以降の本選挙時期にコンスタントに登場している。候補者別に見るとヘーゲル183行に対してネルソンが295行と無党派主義を主張するのは知事の十八番であったことが分かる（図表12）。ヘーゲルはネルソンの無党派主義を批判する文脈で登場するのが一般的であった。ネルソンは，彼がクリントンに同調して上院活動するのではないかという保守派の不安に対して，「自分は大統領に投票するだろう，しかし

図表 14　争点に関連した候補者別好意性得点（好意性行数マイナス非好意性行数）

	ヘーゲル	ネルソン	ドール	ｸﾘﾝﾄﾝﾝ
キャンペイン	1	-54	-118	-122.5
選挙資金	-2	-1	-44	-74
支持(推薦)	197	101	31	185
勝敗	46	-30	127	-104
競馬･ポル	-23	148	-363	517
テレビ討論	-26	-35	-74	44
アド	-198	-168	-102	-80
クリントンの人格	-	-	3	-322
人格	-16	-	-49	19
FBI_FILES	-	-50	-10	-117
スキャンダル	-14	-5	-8	-139
ﾎﾜｲﾄｳｫｰﾀｰ	-	-	-22	-136
防衛	-12	-5	-45	-90
外交	-11	-26	7	-91
経済(発展)	-12	-82	-41	-34
税金	-45	-109	-293	-173
均衡予算	-151	-6	-66	-17
家族第一	-	-	-22	-7
福祉	-	-63	-16	-145
社会問題	-	-	-71	63
人種	-	-	-48	-7
中絶	44	-	-136	-8
煙草	-	-39	-36	-16
麻薬	-	-	25	-184
党派性	-31	-6	-1	-16
政党統一	-	-	-25	-24
副大統領	-	-	31	-8
党大会	-1	-4	-27	101
指名	-6	-	-	-8
第三党	-	-	-43	-110

大統領や民主党に賛成できないときは投票しない」といい,「ドール共和党」と称するヘーゲルに対照して自らを「G・ノリス・ネブラスカ人」と規定した。(24)

3.　候補者対立

上院選挙の対立の構図は，ヘーゲルの党派主義，ネルソンの無党派主義が，メディアを通したネガティブアド合戦，激しいテレビ討論というかたちになって，展開された。

七六

(1) ネガティブアド

「図表14　候補者別好意性得点」にみるように，上院選挙の場合，「キャンペイン」では，ネルソンがヘーゲルに対して－54と否定される割合が大きい。「支持（推薦）」では，ヘーゲルは支持者に肯定的に評価される割合が大きい。「勝敗」については，両者の差がマイナス76ポイントである。世論調査記事関係を表す「競馬・ポル」ではネルソンがヘーゲルを圧倒的に引き離す報道が多い。テレビ討論，アドでは両者が否定し合った状況が如実に出ている。すなわち，ヘーゲルが支持者を糾合し，圧倒的な人気のネルソンに対抗しキャンペインの現場では必死に互角に戦おうとした文字通りの挑戦者であったことを物語っている。

両者のテレビアドを中心とする政治広告はネガティブ・アドが圧倒的であった。「図表15」に地元テレビ局[19]に現れたアドのリストをあげておいた。予選期間中ヘーゲルに対して予選対象政党でない民主党から，ヘーゲルが20年間ネ州ではなくヴァージニア州に住んでワシントンのロビストとして活動し，ヴァ州の知事選出馬も考えたというものがある（表中11番）。また，ヘーゲルの予選対立候補者であるステンバーグもこの民主党アドに実に類似したアドを流した。ヘーゲル派は，本選挙で戦い易い候補者のステンバーグを「買った」と非難した。本選挙期間中には，民主党は，ヘーゲルがワシントンのロビスト期間中に入手した情報をもとに全米認可されたセルラーホンの会社のひとつ(Vanguard Cellular Systems, Inc.)を不正な方法で設立したばかりでなく，それらの会社の税金を納めていない（ネルソンによると1988から92年にかけて未納）と非難するアドを放映した（表中26番）。ヘーゲルは，9月16日に納税リストを提示して疑惑解消に努め，返す刀で，ネルソンが保険担当弁護士でかつ保険会社頭取で巨富をなしたので彼の納税リストを提示すべきだとやり返した（これらのことは，図表11「スキャンダル」の項目にも含まれている）。ネルソンは，ヘーゲルがセルラーホン会社の認可を得るための連邦通信委員会でのくじに勝つために複数のダミー会社を設立した（違法）との疑惑を公表した[20]。ヘーゲル

七五

図表 15　上院選挙ＴＶアド記録

候補者	アド名	種類
予選期間		
1　ﾍｰｹﾞﾙ	ﾍｰｹﾞﾙの経歴：個人責任を学ぶ、子供時代、ﾍﾞﾄﾅﾑ参戦、ﾋﾞｼﾞﾈｽ	ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ
2　ﾍｰｹﾞﾙ	車の運転中のﾄｰｸ：反大きな政府	ﾄｰｸｱﾍｯﾄﾞ・ｱﾄﾞ
3　ﾍｰｹﾞﾙ	ﾍｰｹﾞﾙのﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝとしてのｷｬﾘｱｰ：ｾﾙﾗｰ電話会社の成功、など。	ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ
4　共和党	人々の、知事の行った財産税増税の悪評判。	ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ（街角）ｱﾄﾞ
5　ﾍｰｹﾞﾙ	反大きな政府：大きな政府＝大きな浪費。基本的価値は経済的安心。	ﾄｰｸｱﾍｯﾄﾞ・ｱﾄﾞ
6　ﾈﾙｿﾝ	増税歴のﾈｶﾞｱﾄﾞへの反論：ﾈﾙｿﾝは財産税上昇で攻撃されている。いかなる知事もこの税は抑えられなかった。次は増税を拒否する。	証言ｱﾄﾞ（ｼﾞｬ紙から）
7　ﾍｰｹﾞﾙ	争点：1.支出削減、2.政府規模削減、3.家族への課税削減、4.財政均衡。ﾍｰｹﾞﾙのﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄをもらってください。	ﾄｰｸｱﾍｯﾄﾞ・ｱﾄﾞ
8　共和党	争点：減税、均衡予算（人々、ｵﾏﾊ・ﾜｰﾙﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ紙のﾈﾙｿﾝ批判）	証言ｱﾄﾞ
9　共和党	ﾈﾙｿﾝの財産税増税歴批判。	ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ・ｱﾄﾞ
10　ﾍｰｹﾞﾙ	ﾍﾞﾄﾅﾑ参戦歴	ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ
11　民主党	20 年間ｳﾞｧｰｼﾞﾆｱに居住し、同州の知事選挙にも出馬を考えた。	ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ・ｱﾄﾞ
12　ｽﾃﾝﾊﾞｰｸﾞ	争点：裁判長の任期制限、ﾌﾟﾛﾗｲﾌ	
13　ｽﾃﾝﾊﾞｰｸﾞ	ﾍｰｹﾞﾙは投資銀行家であった。中絶、銃規制について考えを変える、民主党ｹﾘｰに献金をした、など。	ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ・ｱﾄﾞ
14　ﾍｰｹﾞﾙ	ｽﾃﾝﾊﾞｰｸﾞのﾈｶﾞｱﾄﾞへの反論	
15　ﾈﾙｿﾝ	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ、家庭人としてのﾈﾙｿﾝ	争点
16　ﾍｰｹﾞﾙ	ｽﾃﾝﾊﾞｰｸﾞのﾈｶﾞｱﾄﾞへの反論	ｵﾏﾊ・WH 紙からの証言ｱﾄﾞ
17　ﾈﾙｿﾝ	老人福祉：ﾈﾙｿﾝ、母親と一緒に登場。	
本選挙期間		
18　ﾍｰｹﾞﾙ	知事としてのﾈﾙｿﾝの財産税増税責任を問う	ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ・ｱﾄﾞ（街角）
19　ﾈﾙｿﾝ	減税（中所得者減税、ﾍｰｹﾞﾙの財政への裏付けのない減税批判）。	ｼﾞｬ紙からの証言ｱﾄﾞ
20　ﾍｰｹﾞﾙ	減税と教育。	ﾄｰｸｱﾍｯﾄﾞ・ｱﾄﾞ
21　ﾈﾙｿﾝ	ﾍｰｹﾞﾙの学生ﾛｰﾝ・ｶｯﾄ批判。	
22　ﾍｰｹﾞﾙ	減税・学生ﾛｰﾝ。	
23　共和党	知事としてのﾈﾙｿﾝの増税責任を問う、ﾈﾙｿﾝの放漫財政を責める。	ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ・ｱﾄﾞ
24　ﾈﾙｿﾝ	反ﾜｼﾝﾄﾝ：ﾍｰｹﾞﾙはﾛﾋﾞｽﾄであった。ﾍｰｹﾞﾙはﾜｼﾝﾄﾝのやり方で、ﾈﾙｿﾝはﾈﾌﾞﾗｽｶのやり方だ。	
25　全国共和党	増税歴のあるﾈﾙｿﾝのｷｬﾘｱｰ：財産税評価により増税を行った。	ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ・ｱﾄﾞ
26　民主党	ﾍｰｹﾞﾙのｾﾙﾗｰﾎｰﾝ会社創設認可を受ける時の疑惑。	ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ・ｱﾄﾞ
27　ﾍｰｹﾞﾙ	ｸﾘﾝﾄﾝと同じﾈﾙｿﾝの増税歴：公約違反。	ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ・ｱﾄﾞ
28　ﾈﾙｿﾝ	共和党員、ﾈﾙｿﾝ支持を表明。	街角ｱﾄﾞ

七四

はこのことについては公的に訴追されていないと反論した。ヘーゲル派(共和党）は，ネルソンが知事期間中財産税増税を行ったというアドを流しつづけた。

表によると，筆者が遭遇した限りの上院アドのうちいわゆるネガティブ・アドといえるものは，予選から本選挙期間中を通じて28件のアド中9件もあり，攻撃された側の反論も含めると半数に上らんとする。共和党州であり，ドールもクリントンもまったくといっていいほど地方の放送局でアドを流さない中，ほとんどの政治広告はネ州の上院選挙一色で占められたのである。しかも，ネガティブ・アドのケースは，候補者個人のキャンペイン組織から流されるのではなく，州または全国の政党組織からのいわゆる第三者アドという形で行われた点に特徴がある。表からみても分かるように，予選期間中でも，当の共和党予選ではステンバーグのアドは2種類でしかない（そのアドも民主党のアドに酷似していた）のに，共和党からするネルソン攻撃，民主党からのヘーゲル攻撃のアドが顕著であった。第三者アドが盛んであったのは，ネガアドのブーメラン効果への恐れ，政党のアドによる選挙資金の制限回避，などの調子のいい理由が考えられる。中でも両政党が，空席となったネブラスカの上院選挙に焦点を当て資金投入していたという点が最大の理由ではないかと思われる（同州のボブ・ケリーは民主党上院選挙委員長)。その他，ネルソンに対するヘーゲル派(共和党）からのネガアドは，公的機関「知事会議 Governor's Council」の経費でネルソンの運動資金を集めているというものがあった。

(2) テレビ討論

一般に，テレビ討論のデータは討論参加候補者の確定，日程，討論形式，メディアの位置づけなどの事前のフォーマット決定過程，実際のテレビ討論それ自体，その視聴者の反応・政治的意義付け，次のテレビ討論への作戦策定過程で構成されるはずだ。大統領選挙に関しては，フォーマット決定過程における最大の問題は改革党の参加問題であった。結局テレビ討論参加を拒否された改革党はテレビ討論の際に30分の長時間CMで対応す

るという結果となった。(州では，自由党の参加が問題となったが，実質的勢力がなかったためフォーマット決定過程では，単なる日程調整となった。)

ネ州の上院選挙では，予選でヘーゲル対ステンバーグの討論が4月に1回，本選挙でヘーゲル対ネルソンが9月初旬と末に計2回，開催された。[28] 大統領選挙では，予選期間中は各開催州で行われ（ジャ紙では殆ど報道なし)たが，本選挙では10月6，16日に大統領候補者が，10月12日には副大統領候補者がテレビ討論した。記事データの大統領の「テレビ討論」が異常に多いのは討論準備過程の報道が中心となっているからだ。

第一回目のネ州上院議員選挙のテレビ討論は9月6日にヘイスティングスで開催された。[29] 討論は主に，党派性，次期知事問題，均衡予算，をめぐって交わされた。

ヘーゲルが共和党多数派の上院でネ州のために影響力を揮えると党派性を強調したのにたいし，ネルソンは「自分の政党，友人のためではなくネ州のために最善のことのために働く」が，ヘーゲルは「彼の代表性を彼の政党の幹部に預けてしまった」と非難し自己の無党派主義を強調した。

ヘーゲルは知事が2年の任期を残したまま上院に出馬するということは，ネルソンの選挙ばかりでなく副知事ロバックの「知事選挙」という「二つの選挙」になると，ネルソンの無責任を攻撃した。ネルソンは「誰が上院でネブラスカを代表するかという」問題だと切り返した。

均衡予算については，支出カットをしながら予算均衡を図り尚特定減税も実行可能だというヘーゲルに対して，ネルソンは，規制官庁の予算25％カットと教育省を含む4つの連邦省庁廃止で，どの事業にインパクトがあるか「具体性に欠ける」と反論した。ヘーゲルは更に，ネルソンの知事期間中の支出増大（22％）と財産税の上昇に対する無策を批判した。ネルソンは，支出は連邦政府の強制的負担の増加によるメディケアーの増大によるもので，前知事オール（共和）のときより増加率は少ないと説明した。

第二回目のテレビ討論は9月29日にオマハで開かれた。今回はKMTV

の単独主催で討論のフォーマットも討論者同士の質問と遮りを許可するという形式ばらないものであったためか，討論の現場でも討論が終わった後でも延々とけんかを続けるという視聴者にとっては迫力あるものであった。

討論は，第一回と同じく，党派性，均衡予算，が主題となったが，中盤戦にふさわしくお互いのネガティブ・アドへの攻撃にもっとも焦点があたった。

党派性については，ヘーゲルがクリントンのことを麻薬問題のような争点でリーダーシップをとるとは「破滅」であるというと，ネルソンはすかさず「ご存知のとおり自分はビル・クリントンではない。あなたはビル・クリントンに対抗しているのではなく私に対抗しているのだ。私はあなたがヌイト・ギングリッチというつもりはない」と切り返した。[20] このようにホワイトハウスをめぐる問題に対してはヘーゲルの盛んなる挑発にもかかわらずネルソンは関係ないという姿勢を取り続け，けんかにならなかったのである。

均衡予算では，ヘーゲルが知事時代の財産税増税問題とともに州教育協会 Nebraska Education Association がネルソン支持を取り下げたことをあげ，「なぜだ」と詰問したのに対して，ネルソンは，自分が地方政府に支出制限と課税上限を課したのが理由であり，そんなことは「地方支出問題」であると開き直った。ヘーゲルの規制省庁と教育省の予算削減について具体性に欠けるとのネルソンの批判も繰り返されたが，ヘーゲルは教育事業の地方規制の強化，航空局の削減は民営化を志向しているものだ，と答えた。

対立は，事後握手をしようとするときに生じた。ネルソンはヘーゲルが政党などによる第三者のアタック・アドを拒否するなら握手するといい，ヘーゲルは予選前に知事会議に金を使わせて自分へのアタック・アドを行ったということを認めるかどうかと迫った。それではと，ネルソンは，共和党上院委員会議長（A・ダマト，NY）が400,000ドルをヘーゲルのため

に用立てネルソンへのアタック・アドを予選時に行ったことを責めた。ヘーゲルはネルソンにもう一度10月に討論をやって決着をつけようと迫ると，ネルソンは「忙しい」と撥ね付け，自分の握手の申し出に応じないということは，彼がまたアタック・アドをやるつもりだ，と記者たちに言った，という。

残りの本選挙期間中メディアは，「アド記録表」に見られるように両者の激しいアタック・アドに圧倒されたのである。

IV　要約と結論

ネブラスカ州で共和党が上院の議席を得たのは24年ぶりのことであったが，州の96年の上院選挙を大統領選挙と比較して振り返ると次のような問題が浮き彫りになる。

第一に，大統領選挙は，結局大統領の4年間の実績を問うものとなり，均衡予算・減税争点が焦点とされたことはネ州も同調したという点で類似していた。大統領選挙では，経済問題が非常な好況の中大統領に有利に作用し，かつ，施政期間に財政赤字を半減させたということが，クリントンの増税歴が「公約違反」とドールに批判されても，高い業績評価を投票に反映できた。これに対し，ネルソンは知事としての席を中途で投げ出し，かつこのところの上昇する財産税に対して有効な手が打てずに，せいぜい96年春になって選挙目当てとしかおもえない課税上限を設置する法を通しただけだった。ネルソンは，逆に同法によって長年の支持者であった教育団体を疎外するというコストを負った。ネブラスカでは知事の業績はむしろマイナスに評価された。

第二に，ネ州の共和党勢力は，厚い保守層に支えられて進歩派攻撃を純粋な形で行えたといえる。その議題は中絶問題であった。州の共和党は中絶問題で共和党中央のように政党統一で悩む必要などなく，州党大会でも全員プロライフ派の代議員を選び，プロライフ政綱を採択した。ネルソンの方は，プロライフながらもプロチョイスの副知事ロバックの存在，また

はプロチョイス派判事の任命事件などが彼に不利に働いたのにはこのような事情がある。89年のNASISの調査を引くと，表に見るように，カトリックでプロライフ派の半分弱が民主党を選択しているのに対して，プロテスタントプロライフ派の6割近くが共和党を選択している。依然として民主党はカトリックが多く(50％)，共和党にはプロテスタントが多い(50％)という状況下で，共和党のプロライフの声は一層強まってきている（89年調査で，共和党の反中絶派が56％，民主党47％）といえよう。

第三に，ネルソンは当初出馬を渋っていたわけだが，民主党にとって前回州規模で70％もの投票率を上げたネルソンはきわめて重要な候補者であった。党派的に勝つための選挙に出馬して，無党派主義を標榜したとしても所詮カモフラージュにしか過ぎなかったのであろう。

図表16　各政党支持層の中絶反対派の宗派別構成

	プロライフ			
	共和党	民主党	無党派	実数
カトリック	36	49	15	84
プロテスタント	57	25	17	178
その他	31	15	54	13

ここでどうしても特筆しておかなければならない現象がある。それは同時に投票が行われた住民投票案件のうち，No. 411, 412がある。[31] 411は州の教育団体の提起になるもので，州の公立学校における「良質の教育 quality education」を要求するものであった。412は農業団体が提起したもので，財産税に「上限 cap」を設定せよというものであり，両要求とも州憲法改正を予定していた。両要求はセットになって提案され，財産税に制限が加えられた場合でも良質教育の憲法要請がある以上，節約，消費税アップなど州政府としては財源を工面することにより州の経済界が多大な損失を受けると受け止められた。州の財界などは，スーパー・ストアーで買い物する主婦が両請求がとおると消費税アップとなると恐い顔で「脅す」激しい攻撃アドで対応した。411・412派も対抗のアドを流し，11月の投票前のアドは他の選挙のアドを圧倒していた程であった。投票結果は411が8万対27万で否決，412が9万対25万5千で否決，という圧倒的な差で請求反対派の勝利であった（すべての開票は終わって

いない)。

411，412 問題は，中西部の中心部に位置するネブラスカ州が，中央の分裂要素である中絶問題がほとんど合意争点ともなっているほど保守化・共和党化が進み，民主党も自ら保守・中道・無党派を自称しなければ選挙が戦えなくなっていく中で，民主党の進歩派部分は選挙と政党の枠を超えた行動に打って出ざるを得なくなってきた地平で生じた，と理解できる。保守寄りの道を選択した民主党中央，プロチョイスとの和解に苦しむ共和党，とは距離を置く形で，ネブラスカの進歩派・保守派は今後の道を模索せざるを得なくなってきているのである。

註

(1) 4 月の各候補者の本選挙での組み合わせにおける支持を聞くポルでは，ネルソン 59 %対ヘーゲル 35 %，ネルソン 64 %対ステンバーグ 27 %であった。この時点では，ヘーゲルを知らないというものが 64 %と多数であった。ヘーゲルに対する好意度は 30 %，非好意度は 6 %，ステンバーグはそれぞれ 34 %と 23 %でなおステンバーグが支持で上回っていた。ところが，予選直前オマハのテレビ局 (KMTV) の調査ではヘーゲルが 47 %でステンバーグが 38 %と大きく逆転した。Lincoln Journal Star (以下 LJS と記す)，Apr. 10, May 10.

(2) Lincoln Journal Star 紙は，リンカーン市が所在するランカスター郡を中心に 8 万部強の販売部数を持つ日刊紙である(ウィークデーが 81,280，サンデー 85,071 部。LJS, *Retail,* Oct. 1, 1996)。

(3) 9 月当初のポルでネルソン対ヘーゲルは 48 %対 40 %であった。10 月初めでもネルソンが 13 ポイントのリードであった。LJS, Sep. 7, Oct. 21. 10 月末には，ネルソン対ヘーゲルが 48 対 43 %と僅差に追い上げた。LJS, Nov. 1.

(4) 言及政党 (好意，非好意，2 党まで)，と言及利益集団 (2 集団まで) もコードしたが，今回は分析から除外した。上院選挙報道とは，ネ州で実施された 1996 年の連邦上院選挙とその予備選挙のリンカーン・ジャーナルスターの記事をさす。非上院選挙報道とは，それ以外の，州下院，州・地方公職を除く全ての選挙報道をさす。後者はその大部分が大統領選挙で占められる (65 %) が，その他直接公職が明示できない記事 (24 %) などが含まれる。地域的には，全国記事が大部分であるが，他

州の記事などネ州以外の記事がある。

(5) Robert D. Miewald, ed., *Nebraska Government & Politics*, 1984, Chap. Four.

(6) 1977年以来，Bureau of Sociological Researchはネ州の全州民を対象にして，約900名のサンプル規模で毎年電話調査を続けてきた。調査データの呼称はNebraska Annual Social Indicators Survey (NASIS)と呼ばれ，研究用，教育用，学外機関用と多目的に利用されてきた。この度リンカーン滞在中に同室長Waine Osgood氏のご厚意で15年分のデータの提供を受け筆者の研究で利用する旨了解を得た。

(7) 全米の調査では，ICPSRのNES CD-ROM版(1948—1994)を用いた。

(8) LJS, Aug. 3.

(9) LJS, Aug. 5.

(10) LJS, Oct. 1.

(11) LJS, Feb. 13. ステンバーグがリンカーン商工会議所でヘーゲルといっしょに演説した機会に発言した。

(12) ロバックは，民主党州党大会でも，次期知事問題を執拗に議題化しようとする共和党に対して，「記憶にある限りどの知事候補者より私が知事としての経験豊富である」と発言した(LJS, June 23.)。

(13) 以上クリントン，ドールの主張はジャ紙のＡＰ記事より。LJS, Sep. 22.

(14) LJS, Aug. 7.

(15) Ibid.

(16) LJS, Sep. 18.

(17) LJS, Sep. 20.

(18) Ibid.

(19) LJS, June 23.

(20) LJS, Feb. 15.

(21) Ibid.

(22) LJS, May 15.

(23) LJS, May 18.

(24) LJS, May 22.

(25) テレビデータの出典はオマハを根拠地とするKMTV，リンカーンのKOLMであ

る。

(26) LJS, Sep. 17.

(27) LJS, Oct. 26.

(28) テレビ討論は，ジャ紙9月7日，9月30日，また，各日KOLMビデオより引いた。

(29) 主催は共同新聞協会Associated Press Associationの後援で90分間の予定で開かれた。投票日まで3下院議員選挙区で各1回開かれる予定であったが州祭の開催地リンカーンの第一回予定はキャンセルされた。第二回はここでいう第一回であり，第3選挙区（西部ネ州）で開かれ，第二回は第2選挙区（東部，オマハ）で開催された。

(30) LJS, Sep. 30.

(31) LJS, Nov. 4.

＊本稿は1997年5月17日の日本選挙学会における提出論文を加筆訂正したものである。

六八

［付録］ 変数の説明

記事段落で登場した大統領選挙，上院選挙関係の集団・個人（本報告では未使用），登場地域（同），候補者・候補者への好悪，争点・争点への賛否，政党・政党への好悪，対象公職，ニュースソースについて以下に記録しておく（記事データ中の英語呼称，並びにコーディング略記も忘備のために付けておく）。これらはすべて生コードである。分析では，関係するカテゴリーを結合してより度数の大きなカテゴリーを作成したものを利用した。

(1) 登場集団・個人

1—公的集団 1レコード中2コラムの複数コーディング。

	略記	記事内での英語呼称		記事データ中コード	
政府関係				変数番号	値
官僚	Bcy	Bureaucracy Or Bureaucrats		V004.	1
委員会	Com	Committee			2
教育部	DE	Department Of Education	N = Cut		3
麻薬執行局	DEA	Drug Enforcement Administration			4
農業省	DepA	Department Of Agriculture			5
労働省	DepL	Department Of Labor			6
厚生省	DHHS	Department Of Health And Human Service			7
労働省	DtL	Department Of Labor			8
連邦政府	FG	Federal Government			9
政府	G	Government			10
政府役人・官僚	Go	Governmental Officials			11
司法省	JP	Judicial Department			12
ホワイトハウス	WH	White House			13
議会関係					
議会	Cong	Congress (Both The House And Senate)		V005.	1
下院少数派リーダー	Hmil	House Minority Leader			2
下院多数派リーダー	Hml	House Majority Leader			3
下院	HR	House Of Representative			4
州議会代表	Neb	Nebraska Representative In Congress			5
上院多数派リーダー	Sml	Senate Majority Leader			6
上院少数派リーダー	Smil	Senate Minority Leader			7
州選出議員	SMP	State Congressmen			8
上院(上院議員)	Snt	Senate			9
裁判関係					

弁護士	Attny	Attorney	V006.	10
裁判所	Ct	Court		11
キャンペイン組織など				
クリントン参謀	Ca	Clinton Adviser	V001.	1
クリントン選挙本部	Ch	Clinton Campaign Headquarters		2
ドール参謀	Da	Dole Adviser		3
民主党キャンペイン本部	DCH	Democratic Campaign Headquarter		4
ドールキャンペイン本部	DH	Dole Campaign Headquarter		5
民主党キャンペイン委員会	DSCC	Democratic Campaign Committee		6
グラム助言者	Ga	Gram's Adviser		7
共和党キャンペイン本部	RCH	Republican Campaign Headquarter		8
大統領テレビ討論委員会	CPD	Commission On Presidential Debate		9
新人	Cha	Challenger		10
ヘーゲルキャンペイン本部	HCH	Hagel Campaign Headquarters		11
ネルソンキャンペイン本部	NCH	Nelson Campaign Headquarters		12
知事関係者	PG	Person Related To Governor		13
ヘーゲル関係者	PH	Person Related To Hagel		14
州政府関係				
州議員	Nebsnt	Nebraska Senators (State Senator)	V002.	1
州議	SL	State Legislature		2
州政治家	Spoli	State Politician		3
税平等化審査委員会	TERC	Tax Equalization And Review Commission		4
理事会	BC	Board Of Commissioners		5
執行猶予理事会	BP	Board Of Parole		6
理事	Coms	Commissioner		7
知事会議	GC	Governors Council		8
知事	Gov	Governor		9
州郡理事会	NACOBD	Neb. County Board Of Directors		10
州監査委員会	NADC	Nebraska Accountability And Disclosure Commission		11
自然資源区	NRD	Natural Resource District		12
州教育委員会	SBE	State Board Of Education		13
州政府	SG	State Government		14
政党関係				
第三党	3pty	Third Parties	V003.	1
緑の党	Gp	Green Party		2
主流共和党	MRep	Main Stream Republican		3

自然法党	Nedu	Natural Law Party	4
全国共和党上院委員会	NRSC	National Republican Senatorial Committee	5
改革党	RP	Reform Party	6

2 —利益集団

	略記	記事内での英語呼称	記事データ中コード	
			変数番号	値
米保守連合	ACU	American Conservative Union	V008, A008	1
保守集団	Cons	Conservative		2
保守投票者連合	LCV	League Of Conservative Voters		3
主流派保守	Mcons	Mainstream Conservative		4
黒人	Blk	Black	V009, A009	1
移民	Img	Immigrants		2
リンカーン婦人委員会	LWC	Lincoln Women's Commission		3
法反対者	Lopp	Law Opponents	V010, A010	1
法支持者	Lsup	Law Supporters		2
ネットワーク	N-W	Network		3
コメント者	Cmt	Commentator	V011, A011	1
知識人	Int	Intellectuals		2
大学教授	Uprof	University Professors		3
環境保護局	Epa	Environmental Protection Agency	V012, A012	1
法律家協会	BA	Bar Association	V013, A013	2
医者	Doc	Doctor		3
農民局	FB	Farm Bureau		4
農民集団	Fgrp	Farm Group		5
全米警察協会	NAPO	National Associations Of Police Organization		6
州教育協会	NSEA	Nebraska State Education Association		7
たばこ	Tab	Tobacco		8
法廷弁護士	Tr	Trial Lawyers		9
退役軍人	Vet	Veteran		10
財界	BG	Business Group	V014, A014	1
商工会議所	CC	Chamber Of Commerce		2
会社	Corp	Corporation		3
リンカーン商工会議所	Lcc	Lincoln Chamber Of Commerce		4
州商工会議所	Ncci	Nebraska Chamber Of Commerce		5
キリスト教連盟	Chc	Christian Coalition	V014_1, A014_1	1

六三

411・412のための市民	C411-2	Citizens For 411 and 412	V015, A015	1
政府浪費反対市民	CAGW	Citizens Against Government Waste		2
コモンコーズ	Ccs	Common Cause		3
増税阻止連合	CPTI	Coalition To Prevent Tax Increase		4
環境集団	Envg	Environmental Group		5
全米麻薬教育父兄資源団体	NPRIDE	National Parents' Resource Institute For Drug Educ		6
州任期制限連合	NTLC	Nebraska Term Limit Coalition		7
全米投票権利団体	NVRI	National Voting Right Institution		8
堕胎賛成派	Pch	Pro-Choice		9
堕胎反対派	Pli	Pro-Life		10
計画親団体	PP	Planed Parenthood		11
Afl-Cio	A-C	AFL-CIO	V016, A016	1
労組	Unio	Union		2
労働団体	Work	Workers		3
ブルードッグ	BD	Blue Dogs (Conservative-To-Monderate Democrat)	V007, A007	1
ロビスト	Loby	Lobbist		3
新民主党ネットワーク	NDN	New Democratic Network		4

3 —候補者

1レコード中3コラムの複数コーディング　　変数番号　V017, A017, B017

下院選挙			値
Bert	Bereuter	……第一選挙区の現職下院議員（共和党）	2
Bart	Barret	……第三選挙区の現職下院議員（共和党）	8
Chris	Christensen	……第二選挙区の現職下院議員（共和党）	3
Cmb	Combs	……第一選挙区の新人下院議員挑戦者（民主党）	4
Geph	Gepharlt	……下院少数派リーダー	5
Gin	Gingrich	……下院多数派リーダー	6
Hrcand	Candidate For House Of Representative		7
州選挙			
Bres	Breslaw	……共和党次期知事候補	9
Csl	Candidate For State Legislature		10
Dec	Decamp	……上院議員候補者（自由党，途中辞退）	11
Rob	Roback (Next Democratic Gubernatorial Candidate)	…副知事	12
Ssnt	State Senators		14
上院選挙			

六一

Hl	Hagel	上院議員候補者（共和党）	15
Hop	Hopper	上院議員候補者（無所属，辞退!?）	16
Kry	Kerry	現職上院議員（民主党）	17
Nl	Nelson	上院議員候補者（民主党，現職知事）	18
Stc	Senate Candidates		19
Stn	Stenberg	上院議員予選候補者（共和党，現職州検事総長）	20
大統領選挙			
Cl	Clinton	大統領候補者（民主党，現職）	21
Dl	Dole	大統領候補者（共和党，元上院議員）	22
Edl	Elizabeth Dole	ドール夫人	23
Hcl	Hirally R Clinton	クリントン夫人	24
Nd	Nader Ralph	大統領候補者（第三党，市民運動家）	25
Pl	Perot	大統領候補者（改革党）	26
Pow	Powell	副大統領候補者選定対象（元軍人）	27
Rdl	Robin Dole	ドールの娘	28
予選			
Alx	Alexander	大統領予選候補者（共和党）	29
Frb	Forbs	大統領予選候補者（共和党）	30
Pat	Pat Buchanan	大統領予選候補者（共和党）	31

4 ―争　点

1レコード中2コラムの複数コーディング

内　容	略称	コード方法		記事データ中コード	
イデオロギー				変数番号	値
保守	Cons	Conservative	Yes No	V018, A018	1
中道	Ctr	Center (Middle Of The Road)	Support Or Not		2
自由主義	Lib	Liberalism	Y = Liberal N = Oppose Liberalism		3
中産階級	Mida	Middle America	Y = Support For Them		4
中産階級	Middle	Middle Class	Y = Support N = No		5
キャンペイン					
候補者支持率	Appr		Approval Rating	V019, A019	1
キャンペイン戦略	Camp	Campaign Strategy（キャンペイン組織内の紛争や交替，採用などの事態）			2

六一

献金問題	Kerry	ヘーゲルによるケリー献金問題（共和党でありながらヘーゲルがベトナム参戦歴を同じにするという意味でのケリーの大統領予備選に献金をしたという問題）			3
州価値，ローカリズム	Neb	Nebraska Value			4
組織問題	Org	Organization	Y = Strong		5
ベトナム	Viet	Vietnum（ヘーゲルのベトナム参戦歴）			6
ワシントン政治	Washi	Wash 政治との近さ（ヘーゲルが Va. 知事になろうとしたこと，など）			7
テレビ討論	Tvd	TV debate			8
パーソナリティ					
クリントンの人格問題	Clp	Clinton's Personality Problem	Y = Referred, N = Not referred	V020, A020	1
ドールの年齢問題	Dage	Dole's Age Problem	Y = Agree, N = Young		2
ドールの人格	Dlp	Dole's Personality	Y = Good, N = No 経歴の評価を含む		3
リーダーシップ	Ls	Leadership	Y = Have N = No		4
パーソナリティ	Pers	Personality Problem	Y = Good, N = Not Good		5
セクハラ	Sexh	Sexual Harassment	Y = Push Research		6
スキャンダル					
FBI ファイル問題	FBIF	FBI Files Problem	Y = Tough On Files Problems	V021, A021	1
ギングリッチ倫理問題	Gin	Gingrich's Ethics Problem	N = Tough On Gingrich		2
スキャンダル	Scan	Scandal			3
ホワイト・ウォーター	WW	White Water	Y = Push Research		4
ホワイト・ウォーター恩赦	WWp	White Water Pardon	Y = Pardon, N = No		5
メディア					
世論調査	Ppoll	Pushing Poll（世論調査の際選挙運動も行う行為）		V022, A022	1
勝敗	Win	Win Or Loss Y = Win（Camp とほぼ同じ内容）			2
第三者広告問題	Ptyad	（候補者以外の第三者（政党など）が行うアド）			3
外交・防衛					
イラン武器のボスニア移送問題				V023, A023	1
防衛	Def	Defense			2
外交	For	Foreign Policy	Y = Good, N = Bad		3
経済・税・財政					

六〇

規制緩和	Dreg	Deregulation	Y = Push	V024, A024	1
経済発展	Ecod	Economic Development			2
ドールの経済プラン	Ecop	Dole's Economic Plan			3
所得	Incom	Income	Y = Increased		4
失業	Job	Jobless Problem	(Exp. NAFTA)		5
最低賃金	Mwg	Minimum Wage	Y = Push		6
公共料金	Psf	Public Service Fee（公共料金）	N = 上昇反対		7
企業側経済	Supl	Supply Side Economy			8
自由貿易	Trade	Free Trade	Y = Free N = No		9
労働	Work	Workers' Problem			10
水平税	Ftax	Flat Tax			11
減税	Tax	Tax Cut	Y = Push Strongly, N = Push Moderately		12
農業	Farm	Farm Bill Problem（または，農業問題）			13
均衡予算	Bb	Balanced Budget	Y = Thoroughly, N = Consider WF		14
予算	Bdg	Budget			15
財政問題	Finp	Financial Policy	Y = Status Quo, No = Change		16
社会問題					
アルコール	Alc	Alcoholism	N = Tough On Alcoholism	V026, A026	1
文化的保守主義	Ccons	Cultural Conservative			2
子供問題	Child				3
犯罪	Crm	Crime	N = Tough On Crime		4
文化問題	Culi	Cultural Issue (Uniform, test, Tobacco, TV Chip)			5
麻薬	Dg	Drug	N = Tough On Drug		6
言論の自由	Fs	Free Speech	Y = Protect		7
拳銃規制	Gun	Gun Control	Y = Push		8
道徳	Moral	Moralism	Y = Strong Moralism		9
社会的保守主義	Scons	Social Conservatism			10
社会争点	Siss	Social Issues			11
たばこ	Tab	Tobacco	Y = Protect, N = Cut		12
テレビ暴力	Tvv	TV Violence	N = Cut		13
学校の制服	Unf	Uniform In Public School	Y = OK, N = Not Good		14
強制的平等	Aa	Affirmative Action	Y = Support		15, 16
	Afir	Affirmative Action	Y = Pro-Afir, N = Repeal		

五九

いない)。

411，412問題は，中西部の中心部に位置するネブラスカ州が，中央の分裂要素である中絶問題がほとんど合意争点ともなっているほど保守化・共和党化が進み，民主党も自ら保守・中道・無党派を自称しなければ選挙が戦えなくなっていく中で，民主党の進歩派部分は選挙と政党の枠を超えた行動に打って出ざるを得なくなってきた地平で生じた，と理解できる。保守寄りの道を選択した民主党中央，プロチョイスとの和解に苦しむ共和党，とは距離を置く形で，ネブラスカの進歩派・保守派は今後の道を模索せざるを得なくなってきているのである。

註

(1) 4月の各候補者の本選挙での組み合わせにおける支持を聞くポルでは，ネルソン59％対ヘーゲル35％，ネルソン64％対ステンバーグ27％であった。この時点では，ヘーゲルを知らないというものが64％と多数であった。ヘーゲルに対する好意度は30％，非好意度は6％，ステンバーグはそれぞれ34％と23％でなおステンバーグが支持で上回っていた。ところが，予選直前オマハのテレビ局(KMTV)の調査ではヘーゲルが47％でステンバーグが38％と大きく逆転した。Lincoln Journal Star（以下LJSと記す），Apr. 10, May 10.

(2) Lincoln Journal Star紙は，リンカーン市が所在するランカスター郡を中心に8万部強の販売部数を持つ日刊紙である(ウィークデーが81,280，サンデー85,071部。LJS, *Retail*, Oct. 1, 1996)。

(3) 9月当初のポルでネルソン対ヘーゲルは48％対40％であった。10月初めでもネルソンが13ポイントのリードであった。LJS, Sep. 7, Oct. 21. 10月末には，ネルソン対ヘーゲルが48対43％と僅差に追い上げた。LJS, Nov. 1.

(4) 言及政党（好意，非好意，2党まで），と言及利益集団（2集団まで）もコードしたが，今回は分析から除外した。上院選挙報道とは，ネ州で実施された1996年の連邦上院選挙とその予備選挙のリンカーン・ジャーナルスターの記事をさす。非上院選挙報道とは，それ以外の，州下院，州・地方公職を除く全ての選挙報道をさす。後者はその大部分が大統領選挙で占められる（65％）が，その他直接公職が明示できない記事（24％）などが含まれる。地域的には，全国記事が大部分であるが，他

六八

政府					
任命	Apt	Appointment	Y = Good	V029, A029	1
議会大統領関係	Congp				2
フィリバスター	Filb	Filibuster			3
項目拒否	Liv	Line Item Veto			4
2000年大統領	2000	2000 Years President	Y = D, N = R		5
21世紀政治	21c	21st Century Politics			6
反体制	Aest	Anti-Establishment	Y = Anti, N = Pro		7
反ワシントン	Awash	Anti-Washington			8
大きな政府	Bgov	Big Government	N = Oppose		9
ワシントン政治の変更	Chg	Change For Washington Politics			10
分割政府	Dgov	Divided Government	Y = Yes N = One Party Gov.		11
政府の手詰まり	Glk	Grid Lock In Government			12
議会多数派	Mjr	Majority In Congress (House Or Senate) Cared Or No			13
政府改革(行政改革)	Rorg	Governmental Reorganization			14
法案一般	Bill	General Bills		V030, A030	1
Faa法案	FAA	FAA Bill			2
内閣	Cabt	Cabinet	Y = Made Design For Composition		3
選挙					
キャンペイン組織	Cmpo	Campaign Organization		V031, A031	1
下院選挙	Congele	Congressional Election			2
現職優位	Inc	Incumbet Advatage	N = Challengers Guts		3
現職優位	Inc	Incumbent Advantageous	Y = Make N = Make Challenger		
準火曜日	Jtu	Junior Tuesday			5
地方選挙	Lele	Local Election			6
地元候補者	Loc	Local Candidate			7
知名度	Name	Name Recognition	Y = Recognized		8
人格問題	Pers	Personality Problem	Y = Good, N = Not Good		9
個人的歴史	Phist	Personal History			10
予選	Prima	Primary			11
公約	Prm	Promise	Y or N		12
辞退	Quit	Quit From The Race			13

引退	Ritire	Retirement			14
超火曜日	Stu	Super Tuesday			15
任期制限	Tm	Term Limits			16
投票率	Tunt	Voting Turnout			17
投票促進運動	Vote				18
州選挙	Sele	State Election		V032, A032	1
責任ある代表	Repr	Responsive Representative			2
ギャンブル	Gamb	Gambling			3
下院選挙	Hele	House Election			4
競馬報道	Hrc	Horse Race	N = Negative Comment On Horserace		5
ラジオキャスター問題	Radio	Radio Caster Problem (人気ラジオキャスターCombsがラジオに出演したまま選挙戦を戦うことを認めるか否かの問題) Y = No Problem			6
業績	Rcd	Records	Y = Have		7
再選	Reele	Reelection			8
引退	Ret	Retirement			9
対立候補者なし	Unop	Unopposed Problem	Y = No Problem		10
知事選挙	Gele	Gubernatorial Election			11
次期州知事問題	Ngov	Next Nebraska Governor's Problem (現職知事ネルソンが上院に当選した場合，現副知事の進歩派女性ロバックが知事に就任することの問題—共和党のキャンペイン)			12
上院選挙	Sele	(Senate Election)			13
党大会	Conv	Convention Problem	Y = Problem N = No Problem		14
大統領—副大統領関係	P-Vp	President And Vice President Relationship			15
大統領選挙	Pele	Presidential Election			16
副大統領候補者問題	Vpre	Vice Presidential Candidate Problem Y = Good			17
キャンペイン改革	Cr	Campaign Reform	Y = Tough On Reform	V033, A033	0
寄金	Cont	Contribution	N = Problems With It		1
選挙資金集め	Fin	Finance For Election	N = Finace With Certain Pr		2
キャンペイン資金改革	Finr	Campaign Finance Reform	Y = Push		3
資金集め	Fund	Fund Raising			4
ソフトマネー	Soft	Soft Money	Y = No Problem, N = With Problem		5

五六

支出	Spd	Spending			6
争点重視	Iss	Issues	Y = Issue 志向, N = 非争点志向	V034, A034	1
その他の争点	Othe	Others			2
ベトナム	Viet	Vietnum			3
地方問題					
州議員報酬	Slsa	State Legislature's Salary	Y = Up, N = No	V035, A035	1
直接請求411, 422	411-2	Initiative 411, 422	Y = Support, N = Against		2
請求署名問題	Pet	Retition Problem			3
住民投票	Ref	Referendum			4
地方分権	State	Back Power To The States	Y = Local		5
内政					
環境	Env	Environment	Y = Tough On Protection	V036, A036	1
内政	Dpcy	Domestic Policy			2
医療補助	Hc	Health Care	N = Cut		3
医療保険	Hi	Health Insurance	N = Cut		4
医療扶助	Mcr	Medicare	Y = Cut		5
社会保証	Ss	Social Security	Y = Status Quo, N = Cut		6
福祉	Wf	Welfare	Y = Push, N = Cut		7
利益誘導	Pork	Pork Barrel	Y = Good, N = Too Much		8
退役軍人	Vet	Veteran	Y = Consider		9
その他					
極論主義者	Ext	Extremism		V036, A036	10
保護主義者	Protec	Protectionist			11
労働問題	Work				12
メディア問題	Ma	Media Problem	Y = Support, N = Criticism On Ma		13

五五

5 —対象公職など

公職	度数	略記
該当なし	50	
ホワイトハウス	203	WH

連邦政府	16	FG
大統領	5167	PRE
副大統領	99	VP
大統領＋議会	10	PRE+CONG
上院	2283	SNT
下院	209	HR
議会	226	CONG
議会選挙	4	CONGELE
選挙	17	ELE
知事	5	GOV
知事選挙	26	GOVELE
州議会	2	S LEG
裁判所	19	CT
計	8353	

6 ―ニュースソース

記事中に明示されているニュースソースを以下に記載する。(　) 内は登場件数 (行数でなく記事数) を示す。共同通信 (AP) と自社 (Lincoln Journal Star) の割合がほぼ 2 対 1 である。

Associated Press (482)	Houston Chronicle (2)
Associated Press + Lincoln Journal Star (4)	Kansas City Star (1)
Boston Globe (3)	Lincoln Journal Star (202)
Cox News Service (6)	Medill News Service (5)
Fortworth Star (2)	New York Times (31)
Hearst News Service (2)	San Francisco Chronicle (1)

五四